

(公表用)

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」(平成28年度採択)

事後評価結果

番号	研究名	研究代表者	評価
28-6	新設コンクリート構造物における表層品質検査手法の確立	広島大学 教授 半井 健一郎	B
<p><研究の概要> ※成果報告レポートより引用</p> <p>本研究は、非破壊試験を用いた新設コンクリート構造物の表層品質検査システムを実務に展開し、道路ストックの長寿命化に資するため、複数の試験手法の長所を組み合わせることによって簡便性と正確性を両立させた新たな検査システムを提案し、室内試験および実構造物調査を通して試験手法の有効性の実証および改良を行ったうえで検査指針(案)を整備し、現場に実装可能な検査手法を確立させることを目標とする研究開発。</p> <p><事後評価結果></p> <p>本研究の目的であるコンクリート構造物の表層品質検査システムの確立にあたって、3段階の検査手法が提案され、このうち、特に重要だと考えられる1次の検査手法については実務への適用が大いに期待できる適切な研究成果が得られていると評価される。</p> <p>なお、2次の検査手法については雨水の影響等の課題が残る。現時点では適用性に制約条件があるが、表層品質検査システムとしてより確立した技術へと今後発展していくことが期待される。</p> <p><参考意見></p> <ol style="list-style-type: none">1. 今後、適用方法を工夫して、道路管理者と連携した実装に期待する。2. 本研究は特定の材料や工法の開発ではなく、多くの構造物に広く用いる検査方法の確立を目的としているので、検査方法自体の提案だけでなく、実際に広く適用されることとなって初めて目標を達成したといえる。3. 群馬県に限らず、本研究の成果が広く活用されるよう、引き続きデータの蓄積等に期待する。4. 2次検査の詳細法では降雨の影響により評価が困難となることや施工から半年以降でない有効な評価が出来ないこと、3次検査の耐久性評価では当初予定した手法での評価が困難となり他の手法の確立までには至っていないことなど、コンクリート施工後の品質検査手法として確立するためには更なる研究が必要と考えられる。5. 散水機能の判定規準については、本研究での設定の考え方、根拠を明確に示しておくのがよいと考えられる。			

※本事後評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第37回新道路技術会議において審議したものである。